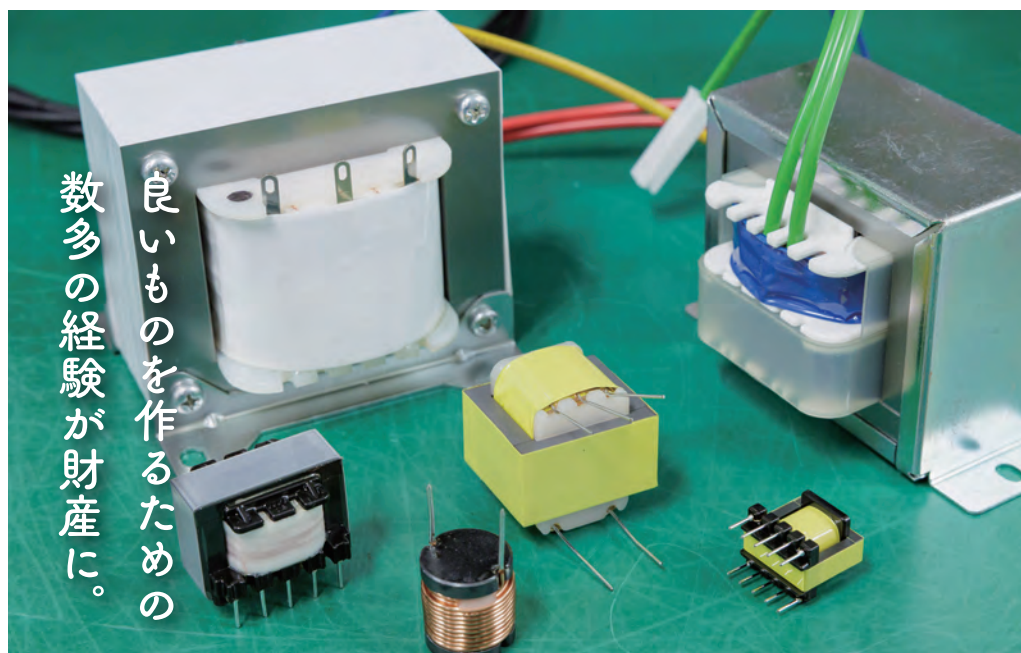




取締役社長 田村 淳

〒019-1404  
仙北郡美郷町六郷字上町49-1  
TEL:0187-88-8063  
FAX:0187-84-3969  
<https://misato-coil.co.jp/>



HP



## 創業からコイル製造のノウハウを独自に蓄積

有限会社美郷コイルは代表の田村さんの父が美郷町六郷で昭和61年に創業。銅線を巻いて作るコイルやそれを組み合わせることで作るトランス(変圧器)と電磁石を製造しており、その両方を製造できることが特徴だ。

「トランスは、電圧を変換するために欠かせない部品です。当社では創業時から銅線を巻くという技術を磨き続けてきました。コイルは用途によって大きさや銅線の種類が異なります。当社ではさまざまな条件に対応できる巻線機を保有しており、多種多様なコイルの製造と小ロットから大ロットまで受注できることが強みです」。

同社では部品の製造だけでなく、生産が終了してしまった部品の修理にも対応しており、発注者に喜ばれているという。

「これまで数えきれないほどの失敗を繰り返しながらも、トランスの構造を独学で理解してきました。通常は設計図を見て組み立てるのですが、長く使用されてきたものは設計図も存在しない。現品を解析し、巻く回数や銅線の太さなどを確認して修理を行っています」。

## 独自技術を次なる世代に繋いでいきたい

目下の課題は人手不足と技術承継。様々な型の製品を扱え、小回りが利くところが他社にはない同社だけの強みと語る一方、技術を教えることの難しさも感じている。

「私自身の知見を引き継ぐには最低でも10年かかると思っています。当社の熟練工の技術も含め、若い世代へ引き継いでいきたいです。今は私が営業活動も行っていきますが、将来的には経営を引き継ぐ人材の育成も必要だと思っています」。

新人には作業をデモンストレーションで教え、図面をタブレットで共有するデジタル化も進め、着々と準備を行っている。

令和6年9月に大仙工場を移転・新築したのは、少しでも人口の多いエリアで求人したいという思いもあった。実際、移転したことにより新たな人材の獲得に繋がっているという。

最近では、大阪にあるカーボンナノチューブの製造会社と共同し、省電力で発熱できるCNTヒータを製造、地元サッカーチームへ貸し出しを行った。同社が蓄積した技術が活かされ、今後も秋田県の未来に広がっていくだろう。



大小、銅線の太さなどコイルの種類は多種多様。工場内にはさまざまな巻線機がある。



出荷前にはトランスの検査項目をチェック。これもトランスの品質を確保するためには必要不可欠な工程だ。



洗練された看板が目える大仙工場。